

# 博物館だより

No. 11

## 企画展 「一宮のまつり」

平成3年3月2日(土)～4月7日(日)



西海戸子供相撲  
89.10.15撮影



馬場西組シシヤカタ  
89.10.28撮影

### 展示室から

一宮市域は一部の扇状地を除き沖積平野であるため、旧集落は自然堤防の上に位置し、あたかも後背湿地（ほとんど水田）の中に村が点々と浮かんでいるようです。しかし、現在では土地改良、区画整理などの事業によって村の形が変わってしまったり、新しい文化の流入などで以前とは景観も地域のあり方も変化しつつあります。そのなかで、従来村や瀬古ごとで行われていたさまざまな行事は、簡略化や廃止への道をたどっています。今回は、現在一宮で行われている祭をとりあげ、変容しつつある共同体のあり方の一端に触れてみようとするものです。



## 〈一宮の主な祭暦〉

1月	
2月	
3月	
4月	真清田神社桃花祭（4/1~3） 光明寺山郷縄祭（4/5） 馬寄石刀祭（4/19に近い日曜日）
5月	
6月	
7月	中島お天王様迎え（土用三郎） 西御堂津島祭（旧6月16日） 浮野夏祭（7月第4日曜日）
8月	黒岩祇園祭（8月第1土曜日） 瀬部白台祭（8/16） 水法芝馬祭（旧暦8/1）
9月	
10月	中島天王様送り（土用三郎から75日） 萩原祭（10/10） 重吉甘酒祭（10月第4日曜日） 浮野秋祭（10月第3日曜日） 馬場秋祭（10月第3日曜日） 西海道子供相撲（10月第3日曜日）
11月	大日天道祭（旧暦10/14）
12月	南小湊神待行事（旧暦10/24、25）

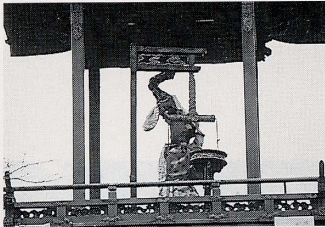
この他、1月のシャギト（左義長）や7月の虫祭、8月には茅の輪くぐり、オショロイサマなどが行われます。（田中禎子）

現在一宮で行われている代表的な祭は、右記のようなものです。従来もっともさかんであった馬の頭は桃花祭、石刀祭にその名残を残すのみで、村々で行われていたものは、死傷者がでたことや馬の供給ができなくなったことが原因で戦後消えていきました（平成元年度企画展「村の飾り馬具」参照）。その他、獅子舞なども行われていたのですが、伝承者が絶えてしまいました。現在シシヤカタが千秋町、浅井町に残っています（現在5台確認）。

このなかで現在残っている祭のほとんどは、保存会という組織を作って保存されてきました。

### 春 馬寄石刀祭 山之小路からくり人形

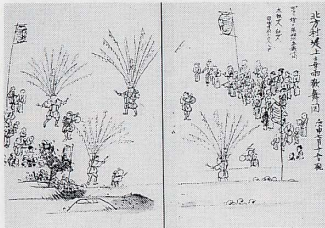
90.4.22撮影



石刀祭では、尾張の祭の特徴の1つであるからくり人形をもつ山車3輛が繰り出されます。もともと5輛あったのですが、戦災で2輛が焼かれてしまいました。現在では、大聖車がもっとも古いことがわかっています。

### 夏 細野要齋筆 感興漫筆

巻25 一北方芭蕉踊の図  
写真：神宮文庫提供



木曾川に面する北方町大日では、対岸の笠松町や羽島市と同様な雨乞踊りが残っています。その他、丹陽町三ツ井でも真清田神社に願をかける雨乞行事が行われていましたが昭和17年を最後に絶えてしまいました。

### 秋 重吉甘酒祭

89.10.21撮影



甘酒祭は、重吉の本郷、新田の集落が祭前日より宿元で甘酒を作り、次の日八幡社へ奉納するものです。もともと三ツ井城主尾藤源内の子孫が行っていた行事が、明治30年以降村の行事になったと伝えられています。

### 冬 南小湊神待行事

90.12.10撮影



南小湊では、毎年新米を旧暦10月24日の夜蒸して鳥の子の形にし、天神社に早朝奉納したあと、1軒1軒に鳥の子を配ります。以前は、宿の家で一晩オコモリをし、その日は決して田畑に出かけてはいけませんでした。

- 講演会
 

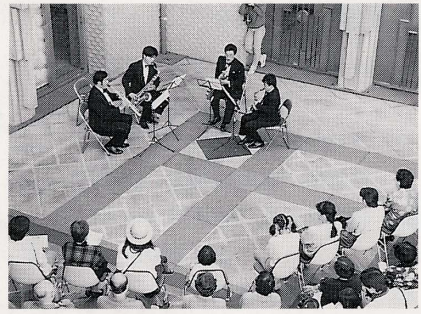
日時	平成3年3月10日(日)
	午後1時30分から
テーマ	「尾張の山車」
講師	半田市立博物館長 立松 宏氏
- 日時 平成3年3月17日(日)
- 午後1時30分から
- テーマ 「尾張の民俗芸能」
- 講師 民俗芸能研究家 鬼頭秀明氏
- 映画会
 

日時	平成3年4月7日(日)
	午前11時・午後2時から
テーマ	「祭りを伝える人々 —尾張津島祭りとともに— 「日本の太鼓」
	★展示説明 当館学芸員



## 【最近の博物館】

秋の日の調べミュージアム・コンサートを開催  
平成2年10月28日(日)午後2時から博物館中庭で  
ミュージアムコンサートが催されました。歴史博  
物館として日頃硬い企画の多い当館では初めての  
試みです。建物の中心をなす中庭は、様々なパフ  
ォーマンス広場として、多目的利用を意図し設計  
されたものですが、屋外にあるため雨天の場合も  
考慮して企画しなければならないという、気にか  
かる点もありました。しかし、当日は天候にも恵  
まれ、穏やかな秋の日和の中で演奏会ははじまり  
ました。内容は、消防音楽隊の方々のサキソフォ  
ンカルテットによるクラシックの名作G線上のア  
リアやメヌエットなど、中学校の授業で我々にも  
なじみの深いものばかりで、クラシックの厳かな  
雰囲気の中にも親しみのあるものでした。当初、  
消防音楽隊の名前に行進曲などの硬いイメージを  
もたれていた方も多いたと思いますが、激しいもの  
から華麗な音色まで様々な表情をもつ金管楽器の、  
その繊細で洒落た演奏にまた思いを新たにされた  
ことでしょう。



- 曲目**
- |                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| 1、G線上のアリア                      | J. S. バッハ |
| 1、メヌエット                        | オルフォーニ    |
| 1、ゴリオークのケーキウオーク                | ドビュッシー    |
| 1、日本の曲 もみじ・竹田の子守唄・<br>どんぐりころころ |           |
| 1、アンダンテ・カンタービレ                 | チャイコフスキー  |
| 1、セビラ                          | アルベニス     |

**演奏** 一宮市消防音楽隊  
—サキソフォン アンサンブル—  
ソプラノサククス：亀井明良、  
アルトサククス：市古友之、  
テナーサククス：伊吹牧男、  
バリトンサククス：三日月孝

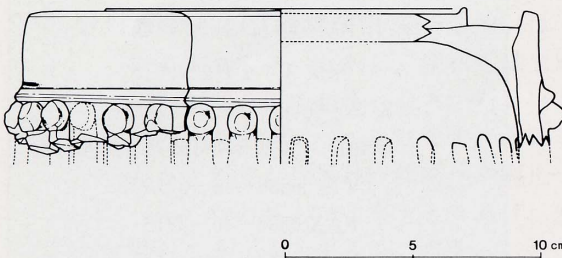
## 新収資料紹介

### 蹄脚硯

8世紀 木曾川町 小川宜彦氏寄贈

葉栗郡木曾川町玉ノ井の沖の木曾川中洲にて採集されたもので、硯部約1/8の破片。

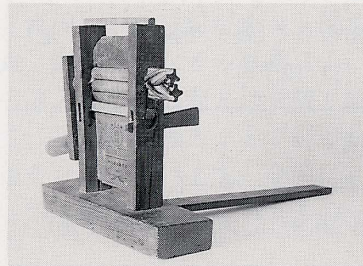
硯部と脚柱部は連続的に成形され、陸(墨を磨る面)の周囲には高さ2ミリの内堤を設ける。陸は製作時の篋磨、さらには使用による摩耗が加わり滑沢。また内堤の直径より一周り小さい円形の窯道具の痕跡がみられる。硯部側面下方に一条の突帯を繞らし、その下に沿って脚柱上端の半球状の脚頭と脚節(型作り)が貼りつけられている。脚柱の間隔(透し)は3ミリと狭い。復原直径20.2センチ。蹄脚硯は本市内に2例出土している。(岩野見司)



### 綿繰ロクロ

岡山市和気町 長瀬幸造氏寄贈  
全長50.5 幅30.0 高さ28.0cm

この綿繰ロクロは、館蔵品の中では商標が付けられたまま保存されている唯一のものである。商標には「元祖/登録商標「国防」/国防式綿繰器/鈴木商会製作所/電話一二三五番・二〇六九番/ニセモノ有り御買求めの節は国防印を御指定下さい。」と印刷されている。角山幸洋氏の「綿繰具の調査研究」(東西学術研究所紀要第20号)によると、同製作所の製品は沼津市、京都府竹野郡丹後町、兵庫県水上郡、河内長野市で各1点ずつ採集されている。このことは、鈴木商会が近畿周辺にまで販売路を開拓していたことを示している。斜歯は一宮ロクロの特徴である四つ山で、胸板は山形をしている。昭和15年頃の衣料不足に対応するためさかんに売られたものの1つであろう。(田中禎子)



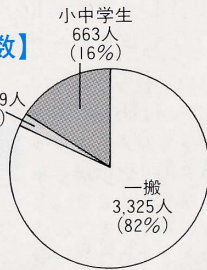


## 博物館日誌 (抄) (2.11.1~12.31)

- 2.11.4 映画会「人間国宝荒川豊蔵」  
「やさきものを作ろう」
- 2.11.11 第13回繊維講座
- 2.11.12 特別展「豊蔵の至芸」閉幕
- 2.11.25 島文楽公演「傾城阿波の鳴門」  
「壺坂靈験記」、「三番叟」
- 2.11.25 第14回繊維講座
- 2.12.22 企画展「維新前夜の地方文人」開幕

### 【展示会開催中の入館者数】

特別展「豊蔵の至芸」 高大生49人 (2%)  
10/14~11/12  
入館者数 4037人/27日



### 【ご来館有難うございました】

(2.11.1~12.31)

尾西市文化財めぐり・能登川町垣見老人クラブ・長久手町教育委員会美術鑑賞ツアー・岩倉市婦人民生委員・慈光会・今伊勢西小6年・内割田婦人親睦会・稲沢4団ボーイスカウトビーバー隊・墨俣町郷土史研究会・員弁町幸大学・大志連区南部長生会老人クラブ・四日市市文化財を訪ねて歩く会・知多地域建築行政研究会・野田市市議会議員・流山市市議会議員・吹田市市議会議員・韓国金海市視察団

## これからの博物館

博物館は、平成3年度こんな企画をしています!!

### 講座

博物館講座	★繊維講座 (1年間)
	★わら細工をつくろう (子供20名)
	★弥生機で織ってみよう (子供20名)
	☆親子博物館めぐり(親子20組 8/7予定)
	☆史跡散策 (11/10予定)
その他	★島文楽公演
	★ミュージアム・コンサート
	☆映画会 (6/16、9/15、10/6、12/8の予定)

## 展示

4月	4/27 一宮の文化財(2)
5月	~5/26 →指定文化財を中心に展示
6月	
7月	
8月	7/20 おもちゃ ~9/1 →郷土玩具やなつかしいおもちゃを展示
9月	
10月	10/26 市政70周年記念
11月	~11/24 小袖一歴博コレクションより →日本独自に発達した小袖の意匠を展示。
12月	
1月	1/15 尾張の書画一村瀬太乙一 ~2/16 →美濃・尾張で活躍した太乙の人物像に迫る。
2月	
3月	2/29 つくる——一宮の職人— ~4/5 →職人の技術を展示。

※★印は日程が未定です。詳細な情報は広報や博物館だよりでお知らせします。

※日程、名称などは変更することがあります。

→お問い合わせは博物館まで

### 編集後記

1991年もはじまり、博物館も4歳になろうとしています。本年も、よろしくお祈りします。  
博物館一同

### 一宮市博物館だより 第11号

平成3年2月22日

編集・発行 一宮市博物館

〒491 一宮市大和町妙興寺2390番地

TEL 0586-46-3215

FAX 0586-46-3216